輝かしい新年を迎えて

今金町農業協同組合　代表理事組合長　小田島　親守

新年明けましておめでとうございます。輝かしい新春をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

また日頃よりJA事業運営に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと2020年から続く新型コロナウイルスは未だ様々なイベントや外食需要の減少など経済の浮揚にブレーキをかけ続けています。また、なんといっても2月24日から始まったロシアのウクライナ侵攻は世界中に衝撃を与えました。21世紀にこんな事が起こって良いのかと暗澹(あんたん)たる思いですが、未だに続く情勢不安などが影響しエネルギー供給や食料生産など世界中が混乱し、日本国内においても生産資材や飼料をはじめ物価が高騰し農業分野への影響も計り知れないものとなっています。

また、昨年当町を襲った未曾有の大雨は農業生産に深刻な被害を及ぼしました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。JA今金町としてはこうした事態に対して特別な資金対応を行うなど、組合員の皆様が持続的に営農していけるよう取り組んでおります。出来秋が心配されるなか総体的には平年作以上の作柄となりましたが、これもひとえに皆様の日々の営農努力の賜物と心より敬服いたします。

昨年の様々な出来事は、食料安全保障という「食料を国内で生産すること」の大切さを改めて考える契機となったのではないでしょうか。JAグループでは、「国民が必要とし消費する食料は、できるだけその国で生産する」という考えのもと、「国消国産」という言葉をメッセージとして発信しています。現在、甜菜や生乳の需給や政策などについて大きな課題となり要請運動も展開しているところですが、水田活用交付金の見直しや「みどりの食料戦略システム」など、農業政策も大きな転換期を迎えています。食料生産は国民の命を守る、国の根幹となるものですから、100年先を見据えたしっかりとした骨太の政策が求められます。私たちもJAグループ北海道の一員として今後も自己改革を実践しながら各種組織討議・要請運動に取り組んで参ります。また、様々な課題の解決には組合員・JA・JAグループとそれぞれの段階での役割を実践する事が必要です。協同の力を発揮し解決に向けて取り組んで参りましょう。

さて、令和5年度からは第13次中期経営計画がスタートします。策定にあたっては皆様からのご意見や12次までの検証を踏まえ役職員で協議を重ねて参りました。組合員数が減少するなかJA事業運営は課題が山積しており、組合員の皆様の事業への参画は欠かすことができません。今後、冬期懇談会で計画を提案させて頂く予定となりますが、積極的な参加と建設的な提言をお願い申し上げます。

結びになりますが、本年は卯年です。卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」も意味するそうで、その跳び姿は「飛躍」や「向上」を象徴し新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。こうした言葉にあやかり、困難を乗り越え飛躍する年となり豊穣の出来秋を迎えられますことと、組合員皆様とご家族一同様の御多幸、御健勝を祈念申し上げ新年の御挨拶といたします。

謹んで新春のお慶びを申し上げます

令和五年元旦

代表理事組合長　小田島　親守
専務理事　仁木　明
常務理事　大場　倫夫
理事　山崎　仁
理事　境田　哲哉
理事　内ヶ島　祐一
理事　水口　仁
理事　成田　正春
理事　本塚　晴看
理事　中山　一浩
代表監事　上野　義則
監事　谷崎　敏之
員外監事　船木　実
金融部長　荒川　英也
管理部長　安齋　保
経済部長　工藤　裕之
営農部長　佐藤　貴弘